

商人の港、日本橋界限

一石橋から 佃島の住吉神社までの 江戸探索コース

現在の地図に『復元・江戸情報地図』(20ページ)の水面(1856年(安政3))を重ねたもの。

紫色の点線：探索コース

グレー：現在の道路

グレーの破線：首都高速道路

濃いブルー：現在の水面

淡いブルー、淡いグリーン：江戸時代の水面

淡い黄色：現住所に日本橋を冠したエリア

現在の日本橋川には一石橋、日本橋、江戸橋、銚子橋、茅場橋、湊橋、豊海橋と7つの橋がかかっているが、茅場橋は新大橋通りが日本橋を渡る橋で1929年(昭和4)に震災復興事業として架橋、銚子橋はもともと「渡し」があったところに来たもの。

常盤橋と呉服橋は外堀を渡る橋。

『復元江戸情報地図』にも

ユアサ商事は「山炭」、山本山は「山本屋」と記載されている。

「山炭」が面していた入堀の水の流れはどう管理されていたのだろうか。

上のコースとは別に、人形町からユアサ商事へ旧入堀を、そして外堀に向けて日本橋地域の北端を歩いた。

切絵図によれば、小伝馬町にあった牢屋敷も堀に面していたようだが、その痕跡は見当たらなかった。



堀留など、上流が行き止まりの所では、水の供給がなければたちまち水が淀んでしまうだろう。上下水道の細かい情報を地図に重ねていけば、その仕組みもわかるかもしれない。



左：ユアサ商事のビル。ビルの右側の道は入堀に沿った道で、向かいのビルの場所に入堀があった。右：日本橋人形町あたりの入堀跡地は公園となっていて、両側を道路に挟まれている。

